



## 実践団体・プラン基本情報

## 実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 17 日 (2023 年度のチャレンジプラン)
プラン名	地域と共に大学の避難時対応について考える
実践団体名	淑徳大学地域共生センター
代表者名	地域共生センター長 鈴木 敏彦
電話番号	043-265-7834
メールアドレス	tk-k-jimu@daijo.shukutoku.ac.jp
実践団体の説明	他者に生かされ、他者を生かし、共に生きる「利他共生」の精神のもと、社会福祉の単科大学から始まった淑徳大学は、2023 年度に首都圏に 4 キャンパス、7 学部 13 学科を擁する総合大学として大きく進化した。また、「建学の精神の行動化」をいっそう推進するため、地域支援ボランティアセンターを発展・強化させ、新たに地域共生センターを開設します。地域の活動、体験を通して「他者と向き合い、共に生き、生かしあう社会の実現と、生涯にわたり地域社会貢献するという生き方」を学ぶプログラムを全キャンパスで展開していく。
所属メンバー	淑徳大学地域共生センター 教職員 6 名
活動の本拠地	〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町 2 0 0 淑徳大学 千葉キャンパス内地域共生センター
活動開始時期・結成時期	2023 年 (地域共生センターの設置開始)
過去の活動履歴・受賞歴	ぼうさいこくたい 2023 でのファーストミッションボックス事例発表 「関東大震災から学び新たな災害対応ツール first Mission Box の有効性を考える」にて「地域と共に大学の避難時対応について考える～淑徳大学のファーストミッションボックス～」の事例について説明



## プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係
プランの運営側の人数（実数）	約 6人
プランの活動地域	・千葉県中央区大蔵寺地区 ・千葉県大網白里市（事例見学）
プランの防災教育の対象者	8. 大学生 10. 教職員・保育士等 12. 地域住民
防災教育の対象者の人数（実数）	約 20人
プランが対象とする災害	1. 地震
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練 3. 防災に関する知識を深める 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 3. 災害時に発生する課題・影響 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 2. 同窓会組織 8. 国・地方公共団体 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 12. NPO
実践にかかった金額	30万円未満



## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施計画の調整</li> <li>新規担当者との調整</li> </ul>	大学内での活動の調整	大学内の情報収集
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施計画の調整</li> </ul>	大学内での活動の調整	大学内の情報収集
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月ワークショップ設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学内での活動の調整</li> <li>非常食体験の食品の選定</li> </ul>	大学外の情報収集（自治体の担当課、近隣大学、市民活動支援センターなど）
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月ワークショップの調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月ワークショップの広報</li> <li>講師日程調整</li> <li>ワークショップの準備（資料集め、資料制作ほか）</li> <li>ワークショップ打合せ</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップの実施</li> <li>ワークショップ後のレポート回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップの準備（資料集め、資料制作ほか）</li> <li>ワークショップ打合せ（複数回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①8/3（木）非常食体験と学内探索</li> <li>②8/4（金）避難体験（FMBの体験）、避難所について知る @大里綜合管理株式会社</li> <li>③8/23（木）、24（金）FMBの制作</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営側のふりかえり</li> <li>今後に向けたスケジュール調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぼうさいこくたいの準備</li> <li>ワークショップ事後とりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぼうさいこくたいの参加（分科会登壇、学生の見学）</li> <li>8月ワークショップ参加学生との打ち合わせ</li> <li>FMBの修正作業（学生）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告会準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FMBの修正作業</li> <li>外部からのヒアリング（淑徳の防災活動に関して）</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FMBの修正作業</li> </ul>
12月			<ul style="list-style-type: none"> <li>FMBの修正作業</li> <li>修正案に対するフィードバック実施（社会教育やまちづくりに関わる他自治体関係者）</li> </ul>
1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>修正版の体験会の準備</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度内の取りまとめ</li> <li>最終報告会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修正版の体験会の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修正版の体験会の実施</li> <li>年間の取り組みの情報発信（大学WEBサイト等）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学外広報物の作成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学外広報物の作成</li> </ul>



## 実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>今後起こりうる災害に備えて、防災や災害支援の在り方について、事例や実践、ワークショップを交えながら考える取り組みを行った。全学的な防災×地域の取り組みは今回が初めてとなるため、まずは参加学生の防災への意欲を高めることを意識し、大学周辺の地域防災について学生が知識を得る学びを重点的に取り入れた後に、ファーストミッションボックス（FMB）の制作に着手した。「(大学内の) 防災備蓄が足りない、という印象」「今回行った内容を授業でも年に1回程度行って欲しい」「避難場所はたくさんあるが、本当に自分が使える所がどこなのか考えさせられた」といった感想が参加者から上がり、FMBの制作をきっかけに普段考える機会の少なかった大学周辺の防災について、キャンパスや教職員と学生の壁を超えて考える機会を年度内に複数回作れたことが大きな成果であった。</p> <p>当初の目的としては「大学版 FMB の制作」を重点的に想定していたが、着手する中で大学内や周辺地域の防災意識の弱さや、学生が防災に対する包括的な知識を得る場の少なさなど、前提となる課題も見えた。一方で、FMB 以外の防災に関する活動に学生が関心を持つきっかけにもなり、防災に関する FMB 制作以外の取り組みにもチャレンジする機会となり、今後の大学としての防災活動に必要な視点を得ることができた。</p>
プランの「チャレンジ」の結果	<ul style="list-style-type: none"><li>●災害時に本学が避難所となりうるか、どのような地域貢献が可能かを探ること。 →今まで教職員と学生が同じ場で災害・防災について話し合う場を設けることができていなかったが、今回の FMB 制作ワークショップを通して、意見交換・認識の共有をすることができた。 また、現状の備蓄品や人的リソースから、地域住民の受け入れを十全に行えるほどの体制が整っていないことが分かった。地域住民の受け入れをどこまでの規模で想定するのかについても、大学内で検討する良い機会となった。</li><li>●備蓄品や被災時の人員の想定等、現状の確認を行うことで、学生が自分事として防災や災害時対応について考えること。 →学生を講座の一参加者として扱うのではなく、FMB 制作のためのコアメンバーという位置づけとしたことで、学生の主体的な参画を引き出すことができた。</li></ul>



実践内容・方法・成果

**①4月～7月、年間：実施計画や学内調整、外部へのヒアリング**

- ・学内の学生や教職員の状況等を把握しながら、実施企画と学内での担当者の確認などの調整を行った。
- ・自治体の担当課、近隣大学、市民活動支援センターなどへ本取り組みを紹介し協力依頼を仰いだ。災害支援や防災に関する取り組みなどを行っているか（または、近隣にそうした活動をしている団体がいないか）の情報収集を行った。
- ・情報収集は定期的に実施し、外部団体や組織の方とお会いするには、積極的に本取り組みの説明を行った。

**【成果】**

- ・日ごろ関係性があった組織・団体に対しても、改めて防災活動に関する取り組みを伺い、情報交換を行うことができた。
- ・地道に外部へ取り組みを紹介していく中で、10月頃に県内の他自治体から小学生向けの防災教室づくりのための連携のご相談を頂いた。1月末～3月にかけて実施予定であり、今回取り組んだファーストミッションボックスの報告と成果についても盛り込む予定としており、引き続き学生・教職員・地域の方々に防災や災害支援に関して考える機会とする。

**①8/3（木）：非常食体験と学内探索**

※参加人数：学生6名、教職員6名 計12名

- ・備蓄品リストから日ごろの持ち出し備蓄を考える
- ・非常食の食べ比べ、ポリ袋クッキング（トマトスープパスタ、煮物）を体験







- ・東日本大震災の事例から、大学の被災状況を考える
- ・それぞれの[3.11]を振り返り、出来事を共有する
- ・被災時に必要なものを知る「ぼうさいダ・ズ・ン」(グループワーク)
- ・学内の防災散歩(備蓄品倉庫・消火栓・非常口等の見学、危険個所のチェック)



- ・学内の備蓄品や危険個所を見学しての感想のシェア、危険個所などの改善に必要なアイデアを出す(グループワーク)



【成果】

- ・非常食やポリ袋クッキングの体験など、言葉としては知っていても体験としては知らない(非常食は通常の食品より高価なため、一人暮らしの学生の場合なかなか備蓄につながっていない、との声もあった)ものに対して、実際に体験する機会を設けることができた。
- ・大学における現状の防災設備や備蓄状況について、学生が直接知る良い機会となり、学生の本取り組みへの意欲の向上が見られた(通常、備蓄倉庫などは公開していないため)。



・現状に対する学生からの忌憚のない意見を拾うことができた。また、学生・教職員と意見交換をすることで、それぞれの立場の認識を共有することができた。

**②8/4 (金) 避難体験：(ファーストミッションボックスの体験)、避難所について知る@大里綜合管理株式会社**

※参加人数：学生8名、教職員5名 計13名

- ・自治体の防災の取り組みについて知る（帰宅困難者支援施設、指定避難所・広域避難場所・福祉避難所の確認、外国人や障がい者への情報発信）
- ・大学周辺（千葉市）の避難場所を調べるワーク（距離だけでなく収容人数や施設の情報なども調べ、大学生が被災した場合にどこに行きやすいかを考える）
- ・東日本大震災の被災状況について（協力：大里綜合管理株式会社）
- ・ファーストミッションボックスの実演（協力：大里綜合管理株式会社）



**【成果】**

- ・既存の大学周辺の地域・自治体の防災の取り組みについて学ぶ機会になった。
- ・FMBを小学生が実際に活用している様子を見学させていただき、FMB制作のイメージを学生間で共有することができた。
- ・小学生たちの実演を見学したことで、「誰でも行動できるファーストミッションボックス」を学ぶことができた。



**③8/23 (木)、24 (金) : ファーストミッションボックスの制作**

**(講師 : 株式会社危機管理教育研究所 理事長 国崎伸江氏)**

※参加人数 : 学生 8 名、教職員 10 名 計 18 名

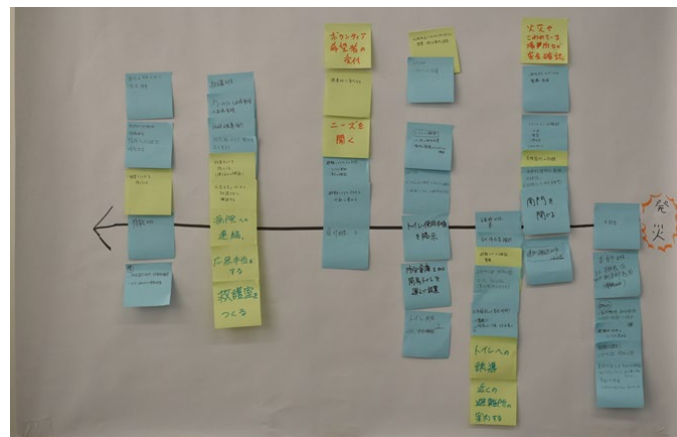
- ・ 概要説明
- ・ 他自治体等のファーストミッションボックス活用事例  
→事例学習を通してイメージを膨らませる



- ・ フレームづくりワークショップ  
→本学で活用するための枠組みを考える



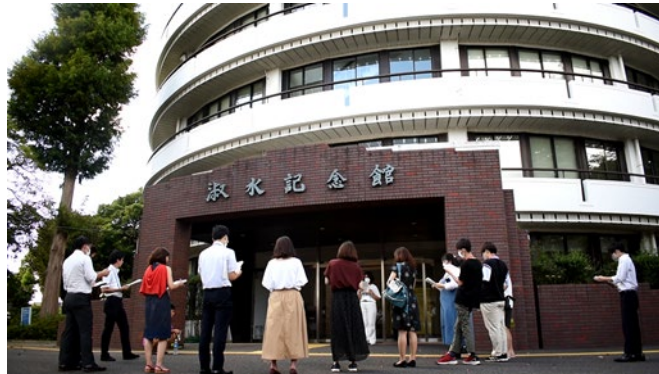
- ・ 指示書づくりワークショップ  
→制作するためのブレインストーミング





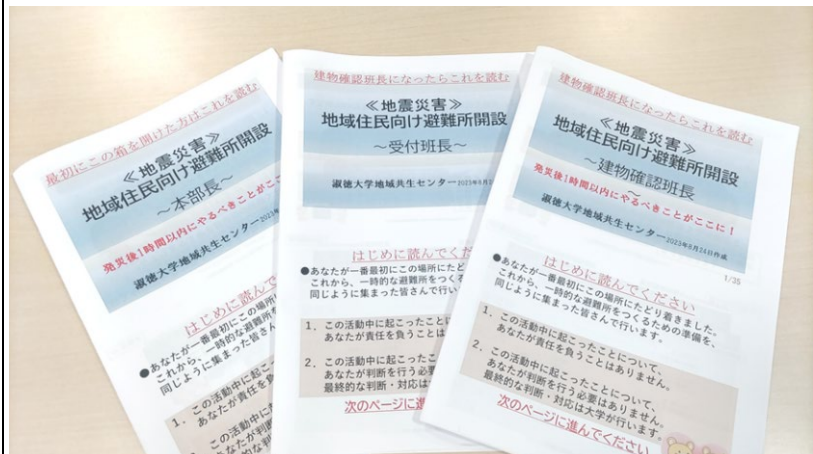


- ・訓練（展開場所の検討）  
→設定した場所でのシミュレーション



【成果】

- ・各キャンパスの教職員と学生が、大学の防災について意見を交わす機会を作ることができた。
- ・FMBの基礎となるフレームワークと指示書について、専門家のアドバイスの元、カスタマイズしたものを作ることができた。





#### ④9月～1月：ファーストミッションボックスの修正

※参加人数：学生6名、教職員6名 合計12名

- ・ワークを踏まえて参加学生との振り返りを実施（Zoom）
- ・学内での調整
- ・修正案に関するフィードバック（社会教育やまちづくりに関わる他市自治体関係者より）
- ・修正案を作成

#### ⑤10月：大学祭での周知活動

・千葉キャンパスでの大学祭において「防災・災害に関するシールアンケート（全4問）」を実施し、在学生・卒業生・地域の方々の防災意識に関する調査を行った。また、実施しているFMB制作についても紹介した。

<シールアンケートの結果> N=65

設問	学生	教職員	地域住民
<b>①大学近くの避難場所がどこにあるか知っていますか</b>			
知っている	3	3	9
知らない	17	13	19
<b>②災害が起こった時のための備えをしていますか（複数回答可）</b>			
食べ物の準備（備蓄）をしている	11	10	19
モノの準備（備蓄）をしている	10	10	9
心・場所の準備をしている	10	8	10
していない	4	5	13
<b>③防災・災害・減災についての知識には…</b>			
自信がある	2	5	12
自信がない	19	11	16
<b>④防災について、興味があることは何ですか（複数回答可）</b>			
日常生活でも使える防災対策	11	10	15
災害を経験した人の体験談	9	5	10
県・市・地域の対策・取り組み	9	5	15
今後の災害の予測について	4	6	14

#### 【成果】

- ・地域共生センターが防災に関する取り組みを推進していることの周知をすることができた。
- ・大学周辺の地域住民の簡易的な意識調査を行うことができた。
- ・大学近くの避難場所を知らない、防災等に関する知識に自身が無い、といった防災に関して不十分であることの認識を持つ方が教職員・学生ともに多いことが分かった。



**⑥1月～2月：修正した指示書による訓練の実施とフィードバック**

- ・今までの取り組みを踏まえ、修正版の体験会を実施し、再度フィードバックをする。
- ・ファーストミッションボックスとは別に、大学として備えが必要なものに対するまとめシートを作る



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

**この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。**

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした	今後の全学的な展開を見据えて、4 キャンパスの施設担当者に参加依頼をした。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災の取り組みに関して、学内での体制が今年度整っていないことから、具体的に連携を求める動きまでには今年度至っておらず、引き続き適切な時期に連携を図りたい。</li> <li>・大学祭の際に「防災・災害に関するシールアンケート」を実施し、卒業生や近隣地域の方に実施事業を周知する機会を作った。</li> </ul>
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った	
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した	
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた	・関係機関・部署と定期的な連絡調整をした。
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した	
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内で東日本大震災の対応に当たった職員から当時の話を聞いた。</li> <li>・地域の防災に関する団体の情報について NPO の中間支援センターのコーディネーターに伺った。(結果、あまり多くはないことが分かった)</li> </ul>



<p>9. 【準備段階】<u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u></p> <p>例：web サイトを引用した</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分事としてとらえられるように、なるべく具体的な資料や事例を紹介した。同じ「備蓄リスト」であったとしても、女性向けのもの・最小限の備蓄リストなど、いくつかパターン化して提示することで、自分に必要な備えを考えられるように工夫した。</li> </ul>
<p>10. 【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u></p> <p>例：実行委員に助言を求めた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を必要とする FMB 制作についてはアドバイザー制度を活用し、専門家によるレクチャーを受けた。</li> <li>・チャレンジプランへの取り組みがきっかけとなり、連携が決まった他自治体のまちづくりのアドバイザー（社会教育士）より、修正中の F M B 指示書のフィードバックを受けた。</li> </ul>
<p>11. 【実行段階】<u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u></p> <p>例：行政・自治会等と共催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきなり具体的な連携を求めるのではなく、まずは現状のヒアリングと、本学で検討している内容の共有を外部人材と出会った際に行った。（その結果、県内他市の安全対策課から小学生の防災教室作りの取り組みに関する声掛けがあった）</li> <li>・大学祭の際に「防災・災害に関するシールアンケート」を実施し、卒業生や近隣地域の方に実施事業を周知する機会を作った。</li> </ul>
<p>12. 【実行段階】<u>活動時間を確保する際の工夫</u></p> <p>例：総合学習の時間に実施した</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み期間や昼休みなど、学生が無理のない範囲で参加できるよう調整した。</li> <li>・千葉キャンパス以外の学生も参加していたことから、Zoom を併用して実施した。</li> </ul>
<p>13. 【実行段階】<u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u></p> <p>例：必要物品を消防署から借りた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の備品等を活用した。</li> </ul>
<p>14. 【実行段階】<u>他の実践団体と交流する際の工夫</u></p> <p>例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した。</li> <li>・個別にメールにて情報交換を行った。</li> </ul>
<p>15. 【継続段階】<u>後任者を育成する際の工夫</u></p> <p>例：若手を入れた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 キャンパスの施設担当者に参画依頼をした。</li> </ul>
<p>16. 【継続段階】<u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u></p> <p>例：引き継ぎ書を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画制作を行った。今後本学の H P 等に公開する予定である。</li> </ul>
<p>17. 【継続段階】<u>活動の成果を外</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学 WEB サイトで定期的に実施内容のレポートを掲載して</li> </ul>





部に発信する際の工夫 例：web サイトで発信した	いる。 ・地域共生センターのリーフレットに実施内容を掲載し、センター紹介時に合わせて取り組みを紹介している。 ・本取り組み動画を本学HPに公開する予定である。
18.【継続段階】活動内容を見直す際の工夫 例：振り返りの会を開催した	・今回は千葉キャンパスにて活動したが、今後は埼玉キャンパス・東京キャンパスでの実施も検討している。本取り組み内容を精査しながら、今後の本学の防災・災害支援について展開していく。

今後の活動予定・今後の展開	今年度、地域を見据えて取り組みを行ったことで、千葉キャンパス周辺（千葉市蘇我・大巖寺エリア）において、地域防災に関する地域の取り組みはさかんとは言えず、本学学生のみならず地域住民の防災意識も高いとは言えない現状であることが分かった。また、大学内でも災害に関して講義等で学ぶ機会はあるものの、身の回りの防災を考える機会が少ないことも分かった。この結果を受け、まずは学生が大学周辺の地域防災の現状を知り、大学周辺の地域住民にも展開できる防災に関する学びと実践の機会を展開することと、学びのアウトプットとしての地域住民への防災啓発活動を行い、学生と地域の両方への「地域共生型」の防災文化の醸成を引き続き次年度以降も目指したい。そうした協働的な動きを生むための下地作りから行うことで、今回プロトタイプ版を作成したFMBを効果的に展開していけるような流れに繋げていきたい。
---------------	---

**この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。**

その他（PRポイントなど）	本プロジェクトの参加学生の中には、防災意識が高まり、自主的に他の災害支援・防災プロジェクトへ参加する学生もいた。そうした学生は今年度、防災・災害支援に関する知識についてかなりレベルアップしている。さらに豪雨災害の被災地をめぐるスタディツアーを提案する学生グループも現れ（3月実施予定）。そうした学生の防災・災害に関する意識を高める活動を本センターは支援し、学生・教職員・地域とともに災害・防災・避難時対応について考える環境づくりを今後も学生に提供していきたい。
---------------	--